



毎年十月（旧暦九月）は、お寺のお祭り「観音祭」と「じんぐうじまつり」の開催月です。例年、境内には出店が並び、お稚児さんと呼ばれる正装をした子供たちが祭りに花を添えてくれました。しかし、今年も僧侶と役員関係者のみでの法要になります。ただし、その後、非公開の仏様等を御開帳します。希望者は、密を避けて、お参りください。

後拝みの御案内

期間 十月十一日〜十七日

場所 本堂及び本堂前

内容 秘仏観音像・両部曼荼羅・火渡り行後渡り

家族葬

良啓

コロナウイルスの影響で様々な事が変わりました。その中で葬儀の形も家族葬が主流になっています。しかし、新しいスタイルの為、具体的な枠組みが無いので、家族葬を希望する場合、注意が必要です。大きくは、「家族だけで葬儀を行う。」「一般焼香を行わない」などが共通しています。また、「小さなお葬式」などと呼ぶ葬儀社もあります。出棺と親族の葬儀式を同時に行うケース、別々に行うそれ、どこまでの親族に声を掛けるのか？等はつきりと決めておく必要があります。

同様に、法事も変わりました。ほとんどが小人数の規模ですが、全員で一度に集まる家庭もあれば、時間帯をずらして焼香する家庭もあります。少数派ですが、ビデオ電話を使用して、遠隔地の参列者に焼香してもらう形式も経験しました。

不幸中の幸いと申しますか、世界的な疫病の蔓延で危機感を募らせた結果、葬儀や法事を真正面から考えるきっかけになり、その家族らしい供養、本当に必要なところにお金と心を使う様な家族が増えました。葬儀供養が変わる中、あえて変わらず、これまで同様皆様を見守る寺でありたいと強く念じます。

平和を願う

大好きな季節がやってきます。心地良い風が吹いてきました。

池の水も音を立て、キラキラ輝いています。平和を願う気持ちが高まり、その思いが、普天間から神宮寺から沖縄から世界へ広がっていくような感覚です。

戦後、焼け野原だった琉球から今の沖縄へ発展することができたのも、想像を絶する大変な時代を、あらゆる思いを胸に抱え、生き延びてきた人々のお陰様です。有難い気持ちが溢れてきます。

沖縄県糸満市摩文仁に、**平和祈念像**があるのはご存じでしょうか
原型製作開始…昭和三十三年

完成…昭和五十三年

製作者…山田真山

高さ十二メートルもある平和祈念像の周りには、平和な世界が永遠に続くよう祈りを込めた折り鶴や絵画で埋め尽くされています。沖縄平和祈念堂に安置されている平和祈念像の原型が、宜野湾市普天間の工房に保管されています。完成から四十年以上が経過し、劣化が進んでいることから、宜野湾市では、令和元年より慰霊の日前後から三か月間**平和祈念像「原型」復活プロジェクト**を実施していました。本年度の受付は終了しているようですが、令和七年迄、実施予定と市のホームページに記載しています。興味のある方は、宜野湾市役所企画政策課へお問い合わせお願いします。

秘仏観音像の秘話

年に一度の観音祭にて、御開帳される神宮寺の**秘仏観音像**ですが、現任職の祖父である先々代住職が、当時、普天間に住んでいた（故）山田真山先生に依頼し、昭和二十八年に奉納された大変貴重な観音像なのです。秘仏観音像に合掌する。私の心の平和なひとときです。世界平和もひとりひとりの平穏な心から

寺務員 兼次みさえ

